

青年期に生じる諸症状に及ぼす両親の養育行動について

木澤光子, 田中 香

家政学部生活科学科生活科学専攻

(2005年11月9日受理)

The Influence of Parents on Various Symptoms caused during Youth

Department of Home and Life Sciences, Faculty of Home Economics,

Gifu Women's University, 80 Taromaru, Gifu, Japan (〒501 - 2592)

KIZAWA Mitsuko and TANAKA Kaori

(Received November 9 , 2005)

1 はじめに

今日臨床の場でその治療に苦慮し話題となるボーダーラインという病理は、1928年リックマンが神経症と統合失調症のどちらとも言えないケースに対し、その診立てのままに付けたのが最初といわれる。また、1953年ナイト(Gnighth, R.)によって境界状態という概念が誕生し、ボーダーラインという言葉が定着したといつて良い。

本研究は直接ボーダーラインについての研究をするものではないが、ボーダーラインの見せる様々な症状に注目している。ボーダーラインの症状は非常にドラマチックで、変化に富んでいる。そのため、常にセラピストとしての治療的構えを反芻、柔軟に修正していかなければならないことが多い。しかし、かといって巻き込まれるのではなく、変化のないものがあることをクライアントに知らしめていく必要もある。彼らさえも分けがわからず、そのわからなさは魅力であり、興味深い病理である。

現在ボーダーラインについては、多くの著書が出版されており、様々なケースへの取り組みや病理理解のための理論的枠組みなどが

論じられているが、余りにも多彩な症状であり、曇りのない見解というのではないと考えて良いだろう。

ボーダーラインの定義については、DSM の分類で、人格障害の中に原始的防衛規制と行動化を特徴とする境界性人格障害で説明されている。また、ボーダーラインは境界例と言う名称で呼ばれ、特徴的な症状をもち、DSM によると「対人関係、自己像、感情の不安定及び著しい衝動性の広範な様式で、成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。」病理として紹介されている。例えば、現実、または空想の中で見捨てられることを避けようとするなりふり構わない努力が、第1の症状にあげられており、全9症状の中から5項目が該当すればボーダーラインと診断する。

このような特徴を持つ比較的軽度のものを境界性人格障害、重度のものをボーダーラインとして区別している。

これら諸症状をまとめると、牛島は「不安、神経症症状、感情障害、行動障害、一過性の精神病、対人態度と社会的適応にまとめて説明している。

また、この諸症状をもつボーダーラインの

発症には、古くから両親の養育態度との関連が報告され、特に性的虐待との関連、つまり家族病理が大きく影響していると言われている。小木曾洋三らは、両親に精神障害や不和、虐待などの問題がある症例ほど、精神科受診の年齢が若年化する傾向があること、また青年期に引きこもり、抑鬱などの症状がみられることを報告している。

そこで、本研究では、ボーダーラインに見られる多くの症状と父母の養育行動との間にどのような関係があるのか、特に諸症状に注目し、できるだけ具体的な症状への養育行動の影響について明らかにしたい。子どもの性格と親の養育態度との関係についてや、ボーダーラインや人格障害というグループと親の養育態度との関係に関する研究は見られるが、細かな性格行動との関係については報告があまりない。この結果を踏まえ、危険域の養育行動の結果、ボーダーラインの症状の一つにつながる可能性がある行動・症状と未然に対応できれば、病理を進行させることを防ぐことができるのではないだろうか。

2 方法

1) 対象者

表1のようにG女子大学生を対象に質問紙調査を実施した。

対象者の内訳は、1年生159人、2年生99人、3年生46人、4年生3人の計307人である。

2) 調査日及び場所

本調査は、平成17年7月上旬、G女子大学で実施した。

3) 調査手続き

調査は講義の終わりに質問紙を配布し、その場で回答させ回収した。

4) 調査内容

調査内容は、学年、性別、家族構成、父親

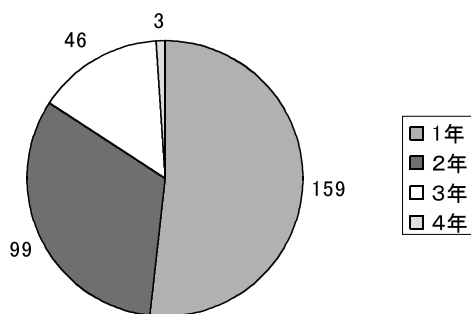


図1 対象者学年別人数 (人)

の養育行動、母親の養育行動、自己感覚、他者認識の感覚、生活感覚、人生観、実際の行動など全87項目で構成している。

質問1, 2, 4, 7, 9, 11, 12, 14, 17~20, は「全くそう思う」「どちらともいえない」「全くそう思わない」と回答する方法をとった。また3, 5, 6, 8, 10, 13, 15, 16, 21~87は「よく思う」「時々思う」「思わない」の3件選択法で回答するように指示した。

5) 結果の処理法

結果の処理は、解析ソフト SPSS8.5を用いて重回帰分析を行った。

3 結果及び考察

1) 父親の養育行動と諸症状との関連について

父親の養育行動には「あなたのいうことを父親は、何でも聞いてくれる」「今までに父親に叱られたことがない」「今までに父親に殴られたことがある」「父親は何でも欲しいものは買ってくれる」「父親にののしられる」「父親に否定される」「父親は自分が必要ならば最初はダメと言っても、最後には許してくれる」「父親は自分がいなくて自分の悪口を言う」「父親は口うるさい」「父親は無視をする」「84私は父親が怖い」の11項目を変数とし、従属変数を表1のように青年期に認められる症状(各質問項目)として、

表1 青年期に見られる諸症状

21. 私は周囲の人や物ごとからいつも見放されている気がする
22. 私は気が狂うのではないかと恐れている
23. 私は自分を傷つけたくなる時がある
24. 私は他人と親しい個人的関係をもつことを恐れている
25. 最初にあった時はその人はとても立派に見えてもやがてがっかりすることが多い
26. 私は人生に立ち向かう力がないと感じている
27. このところずっと幸福だと思うことはない
28. 私の内面は空虚だと思う
29. 自分の人生を自分でコントロールできないと思う
30. たいてい私は孤独だと思う
31. 私はなろうとした人間と違った人間になってしまった
32. 私は何でも新しいことが怖い
33. 私は記憶力に問題がある
34. 何かを決心することは私には難しい
35. 私のまわりには何か壁があるように思う
36. いったい私は誰なのかと困ってしまう
37. 将来に不安がある
38. 時に私はバラバラになるように感じる
39. 私は人前で気を失うのではないかと心配している
40. 私はいつも努力してる
41. 私は自分が何かを演じているかのように自分を見ている
42. 私はいないほうがむしろ家族はうまくやっっていけるだろう
43. 私はいたるところで失敗している人間だと思い始めている
44. この先何をしたいのかわからない
45. 人間関係の中に入ると私は自由ではなくなってしまうように感じる
46. 実際に起こったことと想像したこととの区別がよくわからない
47. 他人は私を「物」のように扱う
48. 何か変な考えが頭に浮かぶと私はそれを取除くことができない
49. 人生に希望はないと思う
50. 私は自分自身を尊敬することはできない
51. 私はまるで霧の中に生きているようにはっきりしない
52. 私は人生の失敗者だ
53. 自分が他人に必要とされている人間とは感じないでいると不安になる
54. 私は真の友人をもっていない
55. 私は自分の人生を生きることができないと思っている
56. 買い物や映画を見に行く時のような人込みの中にいると不安を感じる
57. 私は友人をつくるのが下手である
58. 私はもはや人に認められる立派な人になるうとするには遅すぎる
59. まわりの人は勝手に、自分の心を読んでいるのではないかと思う
60. 私に何かが襲ってきそうだと感じる
61. 私は残酷な考えが浮かぶことがある
62. 私は自分が男性(女性)であることに自信をもっていない
63. 私は長く友人付き合いができない
64. 私は広い場所や市街に出ることを恐れている
65. 私は時に「自分は生きているのだ」と自分に、言い聞かせている
66. 時に私は自分自身ではないと思う
67. 私は友達や家族を信用することはできない
68. 自分や他人に対して、実際より自分をよく見せようとする
69. しばしば異性に誘惑的に振舞う自分がある
70. 人のことなどどうでもよいと毎日感じる
71. 私は幼少の時から家族や友人関係に問題やいじめなど毎年起きていた
72. 私は、礼儀正しく、世の中のルールやマナーを守っている
73. 自分はいつも人に使われ、道具のように使われている
74. 家族や友人など他人を今もずっと憎んでいる
75. 将来、私は期待される人間なる
76. 自分のしたいことが思うように出来ない時、周りに当り散らしたり、他人の責任にすることがある
77. いつも自分は悪くないと思う
78. 自分は自分でないように感じる
80. 自分が親に何で怒られているのかわからないことが多かった
81. 両親は、自分が聞こえない所で、自分の悪口を言う
86. 就職をすることは、とても不安である
87. 人とすれ違ったり、大勢の人の中にいると自分の悪口が聞こえてくる

表2 父親の養育行動と症状との関係

	24. 私は他人と親しい関係を作 ることを恐れて いる	32. 私は何でも 新しいことが怖 い	36. いったい私 は誰なのか困っ てしまう	42. 私がい ない方が家族はう まくやっ ていける	48. 何か変な考 えが浮かぶとそ れを取り除くこ とができない	53. 他人に必要 とされていない と不安になる
	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ
あなたの言うことを父親は、何でも聞いてくれる	0.003	0.216**	0.066	-0.007	0.033	0.005
今までに父親に叱られたことがない	0.116	-0.017	0.085	0.037	0.037	0.077
今までに父親になぐられたことがある	0.204**	0.035	0.032	0.100	0.044	0.113
父親は、何でも欲しいものは買ってくれる	0.028	-0.159*	-0.025	0.103	-0.023	0.020
父親にののしられる	-0.029	0.079	0.020	-0.024	0.007	0.008
父親に否定される	0.010	-0.099	0.114	0.029	0.019	0.034
父親は自分がねだれば最初はダメと言っても、最後には許してくれる	-0.029	-0.044	-0.079	-0.065	-0.013	0.036
父親は、自分がい ない所で自分の悪口を言う	0.056	0.110	-0.009	0.120	0.029	0.015
父親は口うるさい	0.032	-0.009	-0.056	0.041	-0.048	0.034
父親は無視をする	0.008	-0.097	-0.028	0.094	-0.001	-0.071
84私は、父親が怖い	0.053	0.149*	0.219**	0.210**	0.226**	0.256**
	60. 何かおそっ てきそうだと感 じる	62. 自分が女性 であることに自 信を持っていな い	67. 友だちや家 族を信用するこ とができない	77. いつも自分 は悪くないと思 う	80. 何で親に怒 られているのか わからなかった	
	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ	
あなたの言うことを父親は、何でも聞いてくれる	0.014	0.078	-0.121	0.095	-0.040	
今までに父親に叱られたことがない	0.047	0.124	0.126*	0.037	-0.026	
今までに父親になぐられたことがある	0.021	0.153*	0.059	-0.033	0.023	
父親は、何でも欲しいものは買ってくれる	0.132	0.033	-0.015	-0.067	-0.012	
父親にののしられる	0.117	-0.003	-0.007	0.062	0.022	
父親に否定される	-0.096	0.025	-0.013	-0.037	0.089	
父親は自分がねだれば最初はダメと言っても、最後には許してくれる	-0.114	-0.067	-0.027	-0.011	-0.039	
父親は、自分がい ない所で自分の悪口を言う	-0.059	0.085	-0.013	0.228**	0.129	
父親は口うるさい	-0.006	-0.018	0.113	-0.031	0.059	
父親は無視をする	-0.025	-0.088	-0.008	0.066	0.035	
84私は、父親が怖い	0.230**	0.226**	0.226**	-0.020	0.266**	

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$

この間に関連が見られるかどうか重回帰分析を行った結果が表2である。この表2より、父親の養育行動に影響を受けて生じる症状は11項目であり、有意差1%未満で関連の認められた項目についてみていく。

「あなたのいうことを父親は何でも聞いてくれる」の養育行動は「32. 私は何でも新しいことが怖い」との間に弱い関連(0.216)が見られる。父親は、子育てにおいて外界への積極的な関与を促進させるファシリテーターの役割を担うものであるが、父親の過保護的養育は子どものチャレンジする力の形成を妨げると考えられる。

[24. 私は他人と親しい関係を作ることを恐れている]という症状は、「父親に殴られたことがある」との間に弱い関連(0.204)が認められ、父親の暴力は他者への親しみや信頼関係を築く能力に影響すると思われる。

また、父親の養育行動で「父親は自分のいないところで自分の悪口を言う」は「いつも自分は悪くないと思う」との間に弱い関連(0.228)がある。自分のいないところという陰で言う言葉は、子どもにとってフォローのされない一方的な宣告となる。しかし、普段母親よりも接触することの少ない父親の自分への悪口は、強い自己否定感にはつながらないが、責任回避行動に関連し、無責任な行動へと結びつくものと思われる。

父親の養育行動のうち最も多くの症状に影響を与える養育行動は「私は父親が怖い」である。子どもが父親を恐れる気持ちは、「いたい私は誰なのか困ってしまう(0.219)」「わたしがいない方が家族はうまくやっつけられる(0.21)」「何か変な考えが浮かぶと、それを取り除くことができない(0.226)」「他人に必要とされていないと不安になる(0.256)」「何かおそってきそうだと感じる(0.23)」「自分が女性であることに自信を持っていない

(0.226)」「友だちや家族を信用することができない(0.226)」「なんで親に怒られているのかわからなかった(0.226)」の8項目である。「父親が怖い」は現実の父親が本当に怖いかどうかではなく、本人が父親のことをどのように受けとめているのが鍵となる。父親を恐れる気持ちが、他者への不信感、何かわからない漠然とした不安、自我の確立不全といった自他否定、そして未来、希望への期待が持てない状態に影響があると考えられる。

2) 母親の養育行動と諸症状との関連について

母親の養育行動と諸症状との関連について、先の父親の養育行動との関連の分析と同じく、母親の養育行動と症状との間で重回帰分析を行った。母親の養育行動は「あなたのいうことを母親は、何でも聞いてくれる」「今までに母親に叱られたことがない」「今までに母親に殴られたことがある」「母親は何でも欲しいものは買ってくれる」「母親にののしられる」「母親に否定される」「母親は自分がねだれば最初はダメと言っても、最後には許してくれる」「母親は自分がいないところで自分の悪口を言う」「母親は口うるさい」「母親は無視をする」84項目は母親が怖い」である。この養育行動11項目と関連する症状は8項目である(表3)。

その内容をみると、「母親にののしられる」では、「66. 時に自分が自分でないと思う」と弱い関連(0.203)が見られる。また「母親に否定される」は、「71. 幼いときからいじめなどに毎年あった(0.204)」に強くはないが影響している。母親の否定的言動は、子どものアイデンティティの形成に大きく影響し、危機的状況になることも考えられる。父親との間では見られなかった否定的態度の影響は、母親と子どもは一緒にいる時間が長

表3 母親の養育行動と症状との関係

	19. 自分の人生を自分でコントロールできない	34. 何かを決心することは難しい	45. 人間関係の中にはいると自由でなくなる	47. 他人は私を物のように扱う	56. 買い物や映画など、人混みの中に入ると不安になる
	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ
あなたの言うことを母親は、何でも聞いてくれる	- 0.012	0.072	0.011	0.017	- 0.020
今までに母親にしかられたことがない	- 0.057	0.069	0.042	- 0.010	- 0.060
今までに母親になぐられたことがない	- 0.037	- 0.081	- 0.021	- 0.068	- 0.050
母親は、何でも欲しいものは買ってくれる	0.077	- 0.123	0.012	0.100	- 0.051
母親にののしられる	0.149	0.145	- 0.028	0.126	0.022
母親に否定される	- 0.014	- 0.017	0.063	- 0.003	- 0.062
母親は、自分がねだれば最初はダメと言っても、最後には許してくれる	- 0.073	0.024	- 0.044	- 0.050	0.054
母親は、自分がない所で自分の悪口を言う	- 0.119	- 0.197	- 0.008	- 0.060	- 0.065
母親は口うるさい	- 0.077	0.059	0.077	0.051	0.160
母親は無視をする	0.227**	0.233**	0.201**	0.212**	0.246**
85私は、母親が怖い	- 0.008	0.100	0.077	0.049	0.010
	62. 自分が女性であることに自信がない	66. 時に自分が自分でないと思う	71. 幼いときからいじめなどに毎年あってきた		
	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ	標準化係数 ベータ		
あなたの言うことを母親は、何でも聞いてくれる	0.140*	0.087	0.108		
今までに母親にしかられたことがない	0.014	0.013	- 0.036		
今までに母親になぐられたことがない	0.081	0.014	0.010		
母親は、何でも欲しいものは買ってくれる	- 0.028	0.080	0.066		
母親にののしられる	0.000	0.203**	- 0.011		
母親に否定される	0.014	0.037	0.204**		
母親は、自分がねだれば最初はダメと言っても、最後には許してくれる	- 0.008	- 0.051	- 0.025		
母親は、自分がない所で自分の悪口を言う	- 0.026	- 0.085	0.089		
母親は口うるさい	0.074	0.074	0.023		
母親は無視をする	0.217**	0.078	- 0.019		
85私は、母親が怖い	0.144*	0.113	0.049		

* p < 0.05

** p < 0.01

く、繰り返し発言されるために影響は大きいのであろう。また、子どものことを最もよく理解してくれるだろうという期待が大きいがゆえに、否定される態度や言葉は自己の全否定につながりやすくなるのではないだろうか。母親に否定されることの影響は、いじめなどにあうことが多いと感じることにもつながっているが、その理由を分析すると、3つあげることができる。1つには、母親の否定的養育行動を獲得、学習するため、コミュニケーションがうまくいかない。2つ目は母親に否定されることで自己否定感が形成され、人間関係に不安をもたらすため、他者への試し行動などが生じ易くなり正常な関係が維持できなくなる。3つ目は、母親の否定的養育行動は、母親への不信および本人の自己否定感をもたらし、些細なことでも疑い、深く傷つく。そのために実際はいじめられていないのであるが、本人はいじめられていると感じる。

このように母親の否定が、子どもに与える心理的影響が考えられるが、家族の中で最も身近で密着した関係だからこそ、影響が大きいのであろう。

また、様々な症状に影響を与えている養育行動は「母親は無視をする」であった。「母親が無視をする」に影響を受けている項目は、「19.自分の人生を自分でコントロールできない(0.227)」「34.何かを決心することは難しい(0.233)」「45.人間関係の中にはいると自由でなくなる(0.201)」「47.他人はわたしを物のように扱う(0.212)」「56.買い物や映画など、人混みの中にいると不安になる(0.246)」「62.自分が女性であることに自信がない(0.217)」の6項目である。母親に無視されていると感じていると、自分の存在の否定につながることが多いが、自分の人生をコントロールできないといった無力感や無能

力感にも影響することが伺われる。人生最初に出会い、濃厚なやりとりをするはずの母親との良好な関係形成の失敗は、その後の人生の人間関係づくりへの不安として残骸のように残ることは容易に推察できる。

ところで、女性性の獲得については、父への恐怖感、母親の無視の両方ともに影響を受けている。望ましい性同一性の獲得には、両親双方からの暖かいメッセージが必要であると思われる。

青年期にみられる症状に影響を与える親の養育行動には、父親は「恐怖」、母親は「無視」が最も大きく影響を与えることが認められる。

結 論

本調査は、青年期に起こる様々な症状が、親の養育行動とどのように関わり合いがあるのか、特に諸症状に注目し、できるだけ具体的な症状への養育行動の影響について明らかにすることを目的とした。調査時期は、平成17年7月上旬、G女子大学の1年生159人、2年生99人、3年生46人、4年生3人の計307人を対象に実施した。

その結果、以下のことが明らかになった。

父親の殴るといった養育行動は、他者への親しみや信頼関係を築く能力に影響する。

父親の自分への陰口は、強い自己否定感にはつながらないが、責任回避行動に関連し、無責任な行動へと結びつくものと思われる。

父親を恐れる気持ちは、他者への不信感、何かわからない漠然とした不安、自我の確立不全といった自他否定、そして未来、希望への期待が持てない状態に影響がある。

母親の否定的言動は、子どものアイデンティティの形成に大きく影響し、危機的状

況になる場合もある。

母親に無視されていると感じて育つと自分の人生をコントロールできないといった無力感や無能力感にも影響することが伺われた。

女性性の獲得については、父への恐怖感、母親の無視の両方ともに影響を受けていた。望ましい性同一性の獲得には、両親双方からの暖かいメッセージが必要であると考えられる。

青年期になったときの子どもの症状に影響を与える親の養育行動には、父親は「恐怖」、母親は「無視」が最も大きく影響を与えることが認められた。

以上より、ボーダーラインに見られる固着もしくは不安定な症状のいくつかは、親の養育行動と関係があることがわかった。しかし、今回は各症状との関係を見たもので、更にこのデータから各症状がそのままボーダーラインに成長するのは言明することはできな

い。今後もボーダーラインおよび周辺病理について、様々な角度から研究を進めたい。

引用参考文献

- 1) 磯部潮, 人格障害かもしれない, 2003, 光文社新書
- 2) 丸太俊彦, 自己愛型人格障害, 「精神科治療学」選定論文集<境界例>論文集, 1998, 星和書店, pp165~171
- 3) 皆川邦直, 境界例の初期診断と対応「精神科治療学」選定論文集<境界例>論文集, 1998, 星和書店, pp749~756
- 4) 皆川邦直, 境界例と性格病理, 「精神科治療学」選定論文集<境界例>論文集, 1998, 星和書店, pp113~119
- 5) 森屋直樹, 境界パーソナリティ障害と抑うつ, 「精神科治療学」選定論文集<境界例>論文集, 1998, 星和書店, pp73~84